

立川市建設業団体連合会

計画停電で投光支援

東日本大震災で



業界の機動力生かし市民の足元照らす

立川市の建設業者、設備業者、造園業者で組織する立川市建設業団体連合会（内野良一会長）は、東日本大震災に伴う計

画停電に際して、市民の安全を確保するため、JR立川駅周辺で停電時の投光支援を行った。災害時の応急復旧とは異なる、業界の特性、機動力を生かした社会貢献活動を紹介する。

連食会では、3月15日を開いて即座に駅南口・

市から要請を受け、北口の交差点、デッキ部、16日に緊急役員会成。17日には約25人が出

動し、動力発電による投光器やパワーライト約40基を配置図に基づいて設置。実際に停電になつた

置。実際に停電になつた北口地域で午後6時30分からの時30分まで、明かで反省点もあつた」と振

りの消えた立川駅周辺で帰宅を急ぐ市民の足元を照らした。

さらに19日には、活動が長期に及ぶことを想定して投光方法などを再検討。デッキ部へのスズラン

灯設置を市と協議し、機材調達に当たった。

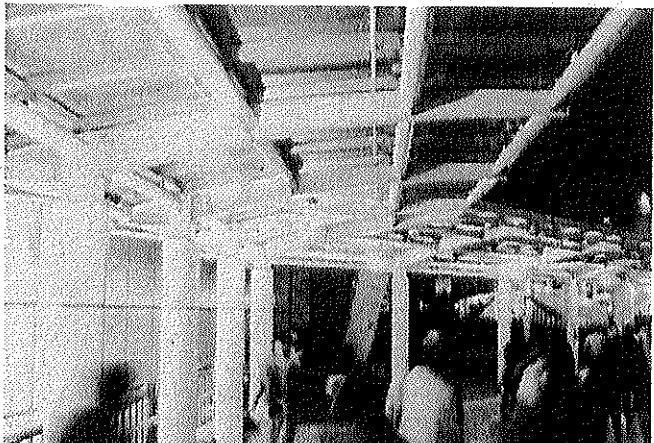
22日には、JR立川駅南北・北口にスズラン灯を設置。当日夜に実施され、た北口地域での停電に対応して投光支援を行つた。

内野会長は、「初めてのことがあり、連絡体制など」という活動の効果を実感した」と話す。

準備面では「長期に及

てまとめ、インターネットの動画投稿サイトで公

JR立川駅北口トランクの
投光支援の様子



ぶ場合も予想し、「スマートン灯」のよりなアナログ的な機材を用意しておいても重要」と指摘する。

連合会では今回の活動を相互の連携をさらに強化していく。投光支援活動が市からの委託業

務として認められた場合に、その請負代金は義援金として被災地に送る

り返るが、活動中に通りかかる市民が「あれ、停電じゃないんだ」と勘違いしてくれたことが、ことを検討している。

反対に市民生活を守つたまた、活動の様子はほかの団体なども参考にできるよう、記録映像としてまとめ、インターネットの動画投稿サイトで公開している。